ポリュカルポスのピリピ人への手紙

スミルナのポリュカルポス
藤遥　制作

あいさつ、1〜6章　義の戒め

0:1 ポリュカルポスと、彼と共にいる長老たちから、ピリピに寄留している神の教会へ。全能の神と、わたしたちの救い主イエス・キリストから、あわれみと平安とが、あなたがたに豊かに加わりますように。

1:1 わたしは、わたしたちの主イエス・キリストにあって、あなたがたと共に大いに喜びました。あなたがたが、まことの愛を写す人々を迎え入れ、あなたがたの務めとして、彼らを送り出したからです。彼らは、聖なる者にふさわしい鎖に巻かれていました。その鎖は、神とわたしたちの主によって、まことに選ばれた人々の王冠です。1:2 また、あなたがたの信仰の確かな根は、昔から言い伝えられてきました。その根が今に至るまでとどまり、わたしたちの主イエス・キリストに向かって実を結んでいることも、わたしは喜びました。主は、わたしたちの罪のために、死にまで至ることを耐え忍ばれました。神は、よみの苦しみを解いて、この方をよみがえらせられました。1:3 あなたがたは、この方を見たことはないのに、言葉につくせない、輝きにみちた喜びをもって信じています。多くの人が、この喜びに入りたいと願っています。救われたのは恵みにより、行いによるのではなく、イエス・キリストによる神のみこころによることを、あなたがたは知っています。

2:1 ですから、あなたがたの腰に帯を締め、むなしい無駄話と多くの人の迷いを捨てて、恐れと真実のうちに神に仕えなさい。あなたがたは神を信じたのです。神は、わたしたちの主イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、栄光と、ご自分の右にある座を、この方に与えられました。天にあるものも地にあるものも、すべてのものがこの方に従わせられました。息のあるものはみな、この方に仕えています。この方は、生者と死者との審判者として来られます。この方に背く者たちに、神はこの方の血の責任を問われます。2:2 この方を死人の中からよみがえらせられた方は、わたしたちをもよみがえらせてくださいます。わたしたちが、そのみこころを行い、その戒めのうちを歩み、その方が愛されたものを愛するならばです。あらゆる不義、貪欲、金銭を愛すること、そしり、偽証を避ける者としてです。悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に、こぶしをもってこぶしに、のろいをもってのろいに報いない者としてです。2:3 また、主が教えて、こう言われたことを覚えている者としてです。『人をさばくな。自分がさばかれないためである。ゆるせ。そうすれば、ゆるされる。あわれみをかけよ。あわれみを受けるためである。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろう』。また、こうも言われました。『貧しい人たちと、義のために迫害されている人たちは、さいわいである。神の国は彼らのものである』。

3:1 兄弟たちよ。わたしが義についてこれらのことをあなたがたに書くのは、自分から進んでのことではありません。あなたがたが、先にわたしに求めたからです。3:2 実際、わたしも、わたしのようなほかのだれも、幸いな、栄光あるパウロの知恵について行くことはできません。パウロは、あなたがたのところにいたとき、その時の人々と顔を合わせて、真理についての言葉を、正確に、確かに教えました。また、離れていても、あなたがたに手紙を書き送りました。その手紙をのぞき込むなら、あなたがたは、自分たちに与えられた信仰へと築き上げられることができるでしょう。3:3 この信仰は、わたしたちすべての母です。望みがそのあとに従い、神とキリストと隣人に対する愛が先に立って導きます。実際、だれでもこれらのうちにいるなら、その人は義の戒めを全うしています。愛を持っている人は、あらゆる罪から遠く離れているのです。

4:1 あらゆる災いの始まりは、金銭を愛することです。ですから、何も世に持って来なかったし、何かを持って出て行くこともできないことを知って、義の武器で身を固めましょう。そして、まず自分自身に、主の戒めのうちを歩むことを教えましょう。4:2 次に、わたしたちの妻たち[1]にも教えましょう。妻たちが、自分たちに与えられた信仰と愛と清さのうちを歩み、まったく真実に自分の夫を慕うようにです。また、あらゆる自制のうちに、すべての人を等しく愛するようにで

す。また、子供たちを、神を恐れることの教えで育てるようにです。4:3 やもめたちには、主への信仰について慎み深くあるよう教えましょう。すべての人のために絶えずとりなすようにです。また、あらゆる中傷、そしり、偽証、金銭を愛すること、あらゆる悪から遠く離れているようにです。自分たちが神の祭壇であることを、彼女たちは知っていなければなりません。また、すべてのものは傷がないかを調べられ、思いはかりも、考えも、心の秘密も、何一つ神に隠れていないことをです。

5:1 ですから、神が侮られるような方ではないことを知って、わたしたちは、神の戒めと栄光にふさわしく歩まなければなりません。5:2 同じように、執事たちは、神の義の前で責められるところのない者でなければなりません。人の執事としてではなく、神とキリストの執事としてです。中傷する者でなく、二枚舌を使わず、金銭を愛さない者でなければなりません。すべてのことに自制し、思いやりがあり、勤勉で、主の真理にしたがって歩まなければなりません。主は、すべての人に仕える者となられました。今の世でこの方に喜ばれるなら、わたしたちは来たるべき世をも受けるでしょう。この方が、わたしたちを死人の中からよみがえらせると約束されたとおりです。また、この方にふさわしく生きるなら、この方と共に支配するとも約束されたとおりです。ただし、わたしたちが本当に信じているならばです。5:3 同じように、若い者たちも、すべてのことにおいて責められるところのない者でなければなりません。何よりもまず清さに心を配り、自分にくつわをかけて、あらゆる悪から離れていなければなりません。実際、世にある欲から引き止められるのは良いことです。あらゆる欲は御霊に逆らって戦い、また、不品行な者も男娼となる者も男色をする者も、神の国をつぐことはないからです。道にはずれたことを行う者たちも同じです。ですから、神とキリストに従うように長老たちと執事たちに従って、これらすべてのことを避けなければなりません。おとめたちは、傷のない、清い良心のうちに歩まなければなりません。

6:1 長老たちも、思いやりがあり、すべての人にあわれみ深くなければなりません。迷い出たものを連れ戻し、弱っている人をみな見舞い、やもめも、孤児も、貧しい人も、なおざりにしてはなりません。むしろ、神と人との前で、いつも善いことに心を配らなければなりません。あらゆる怒り、えこひいき、不正なさばきを避け、金銭を愛することから、まったく遠く離れていなければなりません。だれかに不利なことをすぐに信じたり、さばくときに厳しすぎたりしてはなりません。わたしたちはみな、罪の負債を負う者だと知っているからです。6:2 ですから、ゆるしてくださるよう主に願うなら、わたしたちもゆるさなければなりません。実際、わたしたちは主であり神である方の目の前にいます。そして、すべての人がキリストのさばきの座の前に立ち、一人ひとりが自分について言いひらきをしなければなりません。6:3 ですから、そのように、恐れとあらゆる畏敬をもって、この方に仕えましょう。この方ご自身が命じられたとおりです。わたしたちに福音を伝えた使徒たちも、わたしたちの主が来られることを前もって告げた預言者たちも、そう命じたとおりです。善いことに熱心な者となり、つまずきと、偽兄弟たちと、偽善のうちに主の名を帯びている者たちを避けましょう。彼らは、むなしい人々を迷わせます。

訳注

1 写本は『あなたがたの妻たち』と読む。

7〜14章　忍耐の模範、ウァレンスのこと、結び

7:1 実際、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白しない者は、だれでも反キリストです。また、十字架のあかしを告白しない者は、悪魔から出た者です。また、主のことばを自分の欲に合わせてねじ曲げ、復活もさばきもないと言う者、その者はサタンの長子です。7:2 ですから、多くの人のむなしさと偽りの教えを捨てて、初めからわたしたちに伝えられた言葉に立ち返りましょう。祈りのために身を慎み、断食を続けながらです。また、すべてを見られる神に、わたしたちを試みに会わせないでくださいと、願いをもって求めながらです。主が言われたとおりです。『心は熱しているが、肉体が弱いのである』（マタイ二六・四一）。

8:1 ですから、わたしたちの望みであり、わたしたちの義の保証である方に、絶えず堅くすがりましょう。その方はキリスト・イエスです。この方は、木の上で、ご自分のからだにわたしたちの罪を負われました。この方は罪を犯さず、その口には偽りがありませんでした。しかし、わたしたちのゆえに、すべてを耐え忍ばれました。わたしたちが、この方にあって生きるためです。8:2 ですから、この方の忍耐にならう者となりましょう。この方の名のために苦しみを受けるなら、この方をあがめましょう。実際、この方は、ご自身によって、この模範をわたしたちに示されました。そして、わたしたちはこれを信じたのです。

9:1 ですから、義の言葉に従い、あらゆる忍耐を働かせるよう、あなたがたすべてに勧めます。あなたがたは、この忍耐を目の当たりに見ました。それは、幸いなイグナティオスとゾシモスとルポスにおいてだけではありません。あなたがたの中から出たほかの人々や、パウロ自身とほかの使徒たちにおいても見たのです。9:2 これらの人々はみな、むだに走ったのではなく、信仰と義のうちに走ったのだと確信してです。また、彼らが、主のもとで、受けるべき場所にいることも確信してです。彼らは、主と共に苦しみを受けたのです。実際、彼らは今の世を愛したのではありません。わたしたちのために死に、わたしたちのゆえに神によってよみがえられた方を愛したのです。

10:1 ですから、これらのことのうちに堅く立ち、主の模範に従いなさい。信仰に堅く、動かされることなく、兄弟を愛する者となって、互いにいつくしみなさい。真理のうちに結び合い、主の柔和をもって、進んで互いを重んじなさい。だれをも見下してはなりません。10:2 善を行うことができるときには、先に延ばしてはなりません。施しは死から救い出すからです。みな、互いに従いなさい。異邦人の中で、責められるところのない生活を保ちなさい。あなたがたのりっぱな行いによって、あなたがた自身がほめられ、主があなたがたのゆえにそしられないためです。10:3 しかし、主の名をそしらせる者は、わざわいです。ですから、すべての人に慎みを教えなさい。あなたがた自身も、その慎みのうちに生活しているのです。

11:1 わたしは、ウァレンスのことで、ひどく悲しみました。彼は、かつてあなたがたのところで長老に立てられた人です。その彼が、自分に与えられた地位を、これほどまでにわきまえていないからです。ですから、金銭を愛することを避け、清く、真実であるよう戒めます。あらゆる悪を避けなさい。11:2 これらのことで自分を治めることのできない者が、どうしてほかの人にこれを説くのでしょうか。だれでも金銭を愛することを避けないなら、偶像礼拝によって汚されるでしょう。そして、主のさばきを知らない異邦人と同じようにさばかれるのです。それとも、『聖徒は世をさばくものである』ことを、わたしたちは知らないのでしょうか（第一コリント六・二）。パウロが教えているとおりです。11:3 しかし、わたしは、あなたがたのうちに、このようなことを何一つ見たことも聞いたこともありません。幸いなパウロは、あなたがたのうちで労苦しました。あなたがたは、初めのころの彼の手紙なのです[1]。実際、パウロは、すべての教会であなたがたのことを誇っています。そのころ主を知っていたのは、それらの教会だ

けでした。わたしたちは、まだ知りませんでした。11:4 ですから、兄弟たちよ。わたしは、彼と彼の妻のために、ひどく悲しんでいます。主が彼らに、まことの悔い改めを与えてくださいますように。ですから、あなたがた自身も、このことでは慎み深くありなさい。このような人々を敵のように思わず、弱く、迷い出た肢体として呼び戻しなさい。あなたがたすべてから成るからだ全体を救うためです。実際、このようにすれば、あなたがたは自分自身を築き上げるのです。

12:1 実際、あなたがたは聖書によく通じていて、何一つあなたがたに隠れていないと、わたしは確信しています。わたしには、それは与えられていません。ただ、これらの聖書に言われているとおりです。『怒っても、罪を犯してはならない。憤ったままで、日が暮れるようであってはならない』（詩篇四・四、エペソ四・二六）。これを覚えている人は幸いです。あなたがたはそうしていると、わたしは信じています。12:2 わたしたちの主イエス・キリストの父なる神と、永遠の大祭司ご自身が、あなたがたを築き上げてくださいますように。その大祭司は、神の子イエス・キリスト[2]です。信仰と真理のうちに、あらゆる柔和のうちに、怒ることなく、忍耐と辛抱強さと、耐え忍ぶことと清さのうちにです。また、ご自分の聖なる者たちの中に、受け継ぐ分と分け前を、あなたがたに与えてくださいますように。あなたがたと共にわたしたちにも、また、天の下にいるすべての人々にも与えてくださいますように。わたしたちの主また神である[3]イエス・キリストと、この方を死人の中からよみがえらせられた父とを、これから信じる人々にです。12:3 すべての聖なる者たちのために祈りなさい。また、王たち、権威ある者たち、支配者たちのためにも祈りなさい。あなたがたを迫害し憎む者たちと、十字架の敵たちのためにもです。あなたがたの実が、すべての人に明らかになるためです。あなたがたが、キリストにあって完全な者となるためです。

13:1 あなたがたも、イグナティオスも、わたしに手紙を書いてきました。だれかがシリヤへ行くなら、あなたがたからの手紙も持って行くように、とのことでした。わたしは、ふさわしい機会を得たら、そうします。わたし自身か、あるいは、あなたがたのためにも使者を務めるよう、わたしが送る者がそうします。13:2 あなたがたが頼んだとおり、イグナティオスの手紙を、あなたがたに送りました。彼からわたしたちに送られたものと、わたしたちのところにあったほかの手紙すべてです。それらは、この手紙に添えてあります。あなたがたは、そこから大きな益を受けることができるでしょう。実際、それらは、信仰と忍耐と、わたしたちの主にかかわる、人を築き上げるすべてのことを含んでいます。また、イグナティオス自身と彼の同行者たちについて、もっと確かなことを知ったら、知らせなさい。

14:1 わたしはこれらのことを、クレスケンスによって、あなたがたに書き送りました。彼のことは、先ごろあなたがたに推薦しましたが、今も推薦します。実際、彼は、わたしたちのところで、責められるところなく生活しました。あなたがたのところでも同じようにすると、わたしは信じています。彼の姉妹も、あなたがたのところに着いたら、推薦された者として迎えなさい。主イエス・キリストにあって、恵みのうちに、あなたがたのところのすべての人と共に、お元気で。アーメン。

訳注

1 『パウロの手紙の初めでほめられている』と解する説もある。
2 古い時代の引用には『神イエス・キリスト』とするものがある。
3 写本によっては『また神である』がない。

ポリュカルポスのピリピ人への手紙

2026年 11月 23日版
著者　スミルナのポリュカルポス
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/polycarp-philippians/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/polycarp-philippians
全文を、ギリシア語とラテン語の原文（Πολυκάρπου πρὸς Φιλιππησίους ἐπιστολή）から AI を使って翻訳しました。
訳文は CC BY-SA 4.0 で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。